

第3回 長崎下水道場～結果報告～

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成24年9月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。
- 本県では、平成28年9月に「やるばい長崎下水道場」を設立し、市町若手職員同士のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに県内の下水道事業のさらなる発展を目指して取り組んでいる。

第3回長崎下水道場を以下のとおり開催しました。

○日時：平成31年2月1日（金） 13:30～17:30

○場所：長崎県庁3階307会議室

○対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員

○参加：長崎県内13市町（下水道事業実施：16市町）22名

○名称：長崎下水道場～やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

○会次第

1. 講義

1) 「未普及対策のコスト縮減について」

諫早市 下水道課 山中 賢太

2) 「中部下水処理場の老朽化対策について」

佐世保市 下水道施設課 課長補佐 本山 利明
主任技師 小川 考二

3) 「H30台風7号による広域停電時の対応」

西海市 下水道課 市場 徹

2. 講演

「下水道に携わって後輩技術者に伝えたいこと」

雲仙市 下水道課 課長 井手上 元

3. 事業説明

・「長崎駅周辺の浸水対策事業」

長崎市 下水道建設課 係長 辻田 美治

1. 講義

1) 「未普及対策のコスト縮減について」 諫早市 下水道課 山中 賢太

下水道普及率向上のための新たな管渠整備施工方法について講義していただきました。内容は、曲管による施工、クイック（露出）配管による施工であり、コスト縮減を図りながら下水道普及率向上に取り組んでいるというものでした。長崎県は未だ下水道普及率が全国平均よりも低く、限られた予算で管渠整備を早急に進めていかなければならないため、他自治体の良い参考になりました。



2) 「中部下水処理場の老朽化対策について」

佐世保市 下水道施設課 課長補佐 本山 利明
主任技師 小川 考二

中部下水処理場の改築事例紹介、将来の改築計画について講義をしていただきました。佐世保市は下水道供用開始がS36年と県内で最も早く、処理場の改築時期を迎える中、財政状況等により計画的な維持管理が出来ている状況ではありません。消化ガスによる電力節減等、維持管理コスト縮減のため工夫していることや、効率的なストックマネジメントのためのリスク評価、最適シナリオの設定について説明をいただきました。



3) 「H30台風7号による広域停電時の対応」 西海市 下水道課 市場 徹

西海市では、台風7号による広域停電で処理場及びマンホールポンプが機能停止をし、その際の対応について講義をしていただきました。対応は、自家発電による運転、市内業者の協力（非常用発電機の軽油確保、バキューム車による吸引・運搬、停電対応）。

今後の課題としては、非常用発電の準備と計画的配置、下水道BCPのブラッシュアップ、市内業者との協定締結であると説明をしていただきました。近年多発する自然災害に迅速な対応をするためにはどのような事前準備が必要なのか改めて考えさせられる講義となりました。



2. 講演

「下水道に携わって後輩技術者に伝えたいこと」

雲仙市 下水道課 課長 井手上 元

下水道に携わって32年である井手上課長から、雲仙温泉がある雲仙処理区における下水道施設の維持管理方法と、処理方法がそれぞれ違う4処理場の計画的な維持管理について実体験をもとに講演をしていただきました。それ以外にも、過去に起きた大規模な台風による対応（自家発電等）について当時どのような対応をしたのか、維持管理する上で自らの安全管理について等、実体験をもとに講演をいただき、経験の浅い若手職員にとって今後の取り組みの参考となりました。先輩技術者からのアドバイスを受け、受講者から「中々上司から経験談を聞く機会がないので良い勉強になった」、「下水道に限らず、土木技術者としてどのように考え、問題解決、技術力の向上をしていけばいいのか考える良い機会になった」という声が多くありました。



3. 事業説明

「長崎駅周辺の浸水対策事業」

長崎市 下水道建設課 係長 辻田 美治

現在、長崎駅周辺において、九州新幹線西九州ルート、JR長崎本線連続立体交差事業、長崎駅周辺土地区画整理事業が相互に関連しながら事業が進められています。今回説明いただいたのは、上記事業の進捗に合わせて整備を行なう浸水対策事業についてです。長崎駅周辺では地盤が低くたびたび浸水が発生しており、この浸水を防ぐために、雨水貯留管、雨水渠、フラップゲート等の整備をしています。整備後の、雨水排水シュミレーションをもとに事業説明をしていただきました。



最後に

第2回下水道場開催後のアンケートでは、「技術的な講義を取り入れてほしい」という要望が最も多くありました。今回第3回下水道場ではその要望を叶えるため、県内自治体の主要事業について、市町下水道担当職員から講義をしていただきました。また、先輩技術者からのメッセージとして、下水道担当課長から若手職員へ講演をしていただきました。普段中々聞くことが出来ない話をさせていただき、下水道事業発展のためのモチベーション向上につながりました。今回の下水道場は県内自治体の行政職員のみでの出席として、横のつながりを作る目的で開催しましたが、グループワークの実施が出来ず、意見交換会以外では他自治体職員と話をする機会がなかったので、今後は、横のつながりをより強められる方法を考えないといけない、という課題が残りました。長崎県の下水道事業の発展や、生活環境の向上を計るため、今後の下水道事業を担う若手職員一丸となって頑張らしましょう！！

